【凡例】

会社名（または刻印・煉瓦の仮称）

（印影）

（大阪窯業刻印を基準にしたおよその倍率）

A：工場所在地
B：工場存続期間
C：当該刻印使用時期
D：刻印採取物件
E：該物件所在地
F：該物件建造年
G：マッチング根拠
H：特記事項
※印影文字は似たフォントで代用したものがある。 ※出典略記は以下の通り。煉瓦史：水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、集成：同『国内煉瓦刻印集成』（中部産業遺産研究会「産業遺産研究」第8号）、『年報』：泉南市埋蔵文化財センター年報H22版

岡山県

”ヤマ菱”刻印

D：二代目船坂トンネル脇作業場跡
E：岡山県備前市三石
F：明治37年（1904）～39年頃
H：複線化時に建設されたトンネルの脇の作業場跡瓦礫より採取。漢数字”六”の添印あり。この作業場跡には大阪府下製煉瓦が多数産卵しており、その中にこの刻印煉瓦が一つだけあった。検出状況からすれば府下工場のものとも考え得るが、胎土はまったく均質で泉州系煉瓦とは一線を画している。むしろトンネル以西の煉瓦工場の製品ではないか。

広島県

株式会社吉名煉瓦

A：広島県竹原市吉名町
B：大正14年（1925）合資会社～昭和16年(1941)有限会社～24年株式会社～47年
D：空地転石
E：豊中市南桜塚16
G：文献（『集成』）
H：煉瓦製造業が筍立した広島県吉名町の中でも古い歴史と最大規模を誇った会社。最盛期には４つの工場を有し、瀬戸内海沿岸に広範囲に煉瓦を輸出した。兵庫県高砂市でも採取例あり。

三津窯業株式会社

A：広島県賀茂郡三津町4396-3
B：明治40年（1907）4月水野煉瓦製造所→大正３年廃業、大正８年（1919）3月or2年2月三津煉瓦製造所→昭和22年三津窯業（株）三津工場→昭和53年廃業
G：文献（『赤れんが物語』、集成）
H：三津町の煉瓦製造草創期に興った工場の一つを継承。大正昭和期の黄金期を牽引し、比較的後年まで操業を続けた。兵庫県高砂市別所で類似刻印の目撃例あり（写真未撮影）。

山陽煉瓦株式会社

A：広島県竹原市吉名町
B：昭和17年(1942)～36年
D：道路側溝縁石
E：豊中市中桜塚2-23
G：文献（『集成』）
H："Sanyo Renga Kaisha"の頭文字。岸和田煉瓦の技術者が独立開業した会社で、岸煉に製品を納入した実績もある（それ専用の刻印もあった）。成形に用いる押え板の中央に印が作り付けられていたため、平のほぼ中央に刻印が見られる（『煉瓦史』）。

山陽煉瓦株式会社（岸煉納入用刻印）

A：広島県竹原市吉名町
B：昭和17年(1942)～36年
C：昭和17年～20年
D：南酒造場前敷石
E：高知県安芸郡安田町
G：文献（『煉瓦史』）
山陽煉瓦が戦時中に使用していた刻印。岸和田煉瓦にOEM製品として納入する煉瓦に押されていた。岸煉の職人が独立して山陽煉瓦を興したといういきさつがあり、両社は深い関係にあったようである。

松本煉瓦株式会社

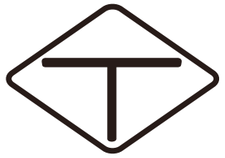
×0.3

A：広島県竹原市吉名町
B：昭和13年(1938)11月～現業
D：塀（駐車場境界）
E：大阪市大正区三軒家東1-12
G：文献（『集成』）
H："Matsuoto Renga Kaisha" の頭文字を平全面に刻印。大正初頭の煉瓦不況の際、関西地方と瀬戸内の煉瓦製造業者がカルテルを結び生産統制を行なったことがある。この地域を商圏として煉瓦の流通があったようだ。

松本煉瓦株式会社

A：広島県竹原市吉名町
B：昭和13年(1938)11月～現業
C：昭和20年(1945)頃
D：廃屋前転石
E：吹田市清和園町16
G：文献
H："Matsuoto" の頭文字Mを丸で囲む。吹田市で採取の煉瓦も、港区弁天町駅付近の住宅街で敷石に使われているものも機械成形煉瓦に押されている。大阪府東淀川区三国本町、豊中市では手成形に押されたものを検出。

有限会社東亜煉瓦

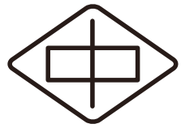


A：広島県竹原市吉名町
B：昭和16年（1941）～40年(1965)
D：空地転石
E：大阪市西成区北津守1-2-3
G：文献
H：『集成』に東亜煉瓦の刻印として登録。大阪市此花区西九条の大阪卸売市場に隣接する住宅地でこの煉瓦が敷石に使われている。

中住煉瓦株式会社

A：広島県賀茂郡安芸津町木谷4258（東広島市安芸津町木谷）
B：昭和8年（1933）～昭和46年12月
C：昭和42年（1967）まで
D：広島県東広島市安芸津町木谷1611個人宅
G：印影、聞き取り
H：昭和27年株式会社化。昭和28年成形機導入。昭和38年、真空式抜出機設置。化粧煉瓦も製造。販路は、阪神以西、北九州、四国各地。NZは会社名のローマ字のNakaZumiに由来。

中国煉瓦株式会社



A：広島県賀茂郡安芸津町木谷324（東広島市安芸津町木谷）
B：昭和12年(1937)～50年頃？
D：空地転石
E：豊中市若竹町1
G：文献
H：『集成』には中国煉瓦の刻印として収録。豊中市小曽根の住宅地で採取。

中国煉瓦株式会社木谷工場

×0.5

A：賀茂郡安芸津町木谷324
B：昭和12年(1937)～55年頃？
D：広島県安芸津町木谷317転石
G：分布状況、印影
H：CKの由来はChugoku Kashinoと推定する。Kは播州地方の煉瓦に多数見ることができる。株式会社樫野の社史に中国煉瓦株式会社の設立に関与したことの記載あり。

山陽煉瓦株式会社（三津）？

A：賀茂郡三津町
B：大正5年(1917)～7年頃？
D：東広島市安芸津町立花
G：分布状況、印影
H：三津の煉瓦工場で働いていた職人が煉瓦を貰い受けて作ったとされるアーチ型倉庫で検出。三津には大正時代に山陽煉瓦（株）が存在したので、同工場で使用されていた印かも知れない。

初代呉鎮守府庁舎使用煉瓦

D：入船山記念館 元・券売所
E：広島県呉市幸町4-6
F：明治20年2月6日起工～22年3月31日竣工
H：昭和56年に解体された初代呉鎮守府（軍港司令部として建設）の煉瓦で作られた小家で検出。敦賀港駅ランプ小屋や東海道線M19～22頃の建造物で検出されている”□＋漢字”印と同形印に加え、やや縦長の□で囲った”又”、楕円で囲った”久”印あり。煉瓦自体は東京形、白斑を有する胎土は広島県下では稀。

宇品糧秣支廠倉庫使用煉瓦

D：宇品糧秣支廠倉庫モニュメント
E：広島市南区宇品西3丁目1（大林組宇品寮前）
F：～明治44年
H：縦横1.5cmほどの小型カナ印。識別印と見られ、他に”ウ”を検出。三津浜の煉瓦工場で使用されていた”○ト”印の添印よりも若干大きい（宇品糧秣支廠では同工場の煉瓦も使用されていた。広島市郷土資料館調査報告書第16集「れんがと広島」参照）。

亀甲＋カナ印

×0.5

D：広島市郷土資料館（旧宇品糧秣支廠缶詰工場）
E：広島市南区宇品御幸2-6-20
F：～明治44年
H：軒下繰り形の裏に複数の刻印を確認。煉瓦胎土は均質で白斑を含まない。広島県下の明治40年代～大正初期の建物、芸予要塞でも見つかっている他、初代呉鎮守府にも使用例があったといい（『街のいろはレンガ色』）、大阪鉄道のM23開業の構造物でも検出されているが、この期間をカバーする工場が存在しない。

東広島市西条転石

D：東広島市西条朝日町1
H：函型枠で製造されたJISサイズの煉瓦に打刻。”Ⓣ”をやや縦長にして太くしたような印。縦約3cm。

三石耐火煉瓦（株）

A：和気郡三石村字三石868
B：明治25年（1882）12月～現業
G：印影、分布状況
H：三石地方で最初に興った耐火煉瓦製造会社。現在も同地で製造を続ける。初期の製品は「三石耐火煉瓦株式會社」を縦書きで打刻、また平面にディンプルが施されている（カナの識別印？が付属することも）。

三石耐火煉瓦加藤（合資）

A：和気郡三石町333
B：明治39年（1906）～昭和43年（1968）頃
G：印影、分布状況
H：明治34年4月加藤耐火煉瓦製造所→明治39頃？三石耐火煉瓦加藤合資会社。左記三石耐火煉瓦の印を流用し「加藤合資」の文字を割り注で入れた形。

三石耐火煉瓦（株）

A：和気郡三石村字三石868
B：明治25年（1882）12月～現業
G：社章（『日本登録商標大全』第二編）
H：明治29年3月30日に商標取得（第7325号）。同社は今でもこのマークを社章に用いている。

三石耐火煉瓦（株）

A：和気郡三石村字三石868
B：明治25年（1882）12月～現業
D：洲本アルチザンスクエア敷石
G：社章（『日本登録商標大全』）
H：大正11年10月13日取得の商標（第4046号）。当時の飛行船ブームに乗って出願されたものらしい。実際にこの印が押された耐火煉瓦が見つかっている（兵庫県洲本市旧鐘紡洲本工場：現洲本アルチザンスクウェア敷石や舞鶴市赤れんが博物館蔵煉瓦）。

三石耐火煉瓦（株）

A：和気郡三石村字三石868
B：明治25年（1882）12月～現業
G：社名略号
H：三石耐火煉瓦株式会社の略号MTKを刻んた刻印。添えられた「ニドヤキ」の文字は同社のブランドのひとつ。なお現行のJISでは社名と商品名の記載のみ認められ、SKグレードの記載は認められていないが、三石耐火煉瓦（株）では製品名にSKグレードを用いているため耐火度を知ることができる。

三石高級耐火工業（株）

A：和気郡三石町三石345→和気郡三石町2577（S43）
B：明治29年7月三石クレー耐火煉瓦（株）→T9頃休止→昭和2年4月or昭和3年4月三石高級耐火工業（株）→昭和43年頃移転？
E：大阪府江之子島庁舎跡ほか
H：径8cmほどの同心円状の三重丸。欠けがあるのが正式。江之子島庁舎跡よりこの刻印煉瓦に油性ペンで「三石高級耐火」と書かれたものが見つかっている（後の産業技術総合研究所時代の遺物）。

エッチエス耐火煉瓦製造所

A：和気郡三石町三石452→三石町2577（S43以降）
B：大正5年（1916）3月エッチエス耐火煉瓦製造所→昭和6年頃三石星煉瓦製造→昭和21年頃三石星煉瓦（株）→昭和43年頃ホシレンガ（株）→昭和55年以降に三石耐火（株）
G：商標（『日本登録商標大全』第11輯上）
H：大正7年5月7日商標取得（第93596～93599号）。星の数でグレードを表したらしく、1個から4個まで出願されている。

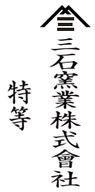
ホシレンガ（株）

A：和気郡三石町三石452→三石町2577（S43以降）
B：大正5年（1916）3月エッチエス耐火煉瓦製造所→昭和6年頃三石星煉瓦製造→昭和21年頃三石星煉瓦（株）→昭和43年頃ホシレンガ（株）→昭和55年以降に三石耐火（株）
G：印影
H：「CORROSIST」はホシレンガ（株）の商品名。
同社は近年三石耐火煉瓦（株）と合併し同社ホシ工場となっている。

三石窯業（株）

A：和気郡三石町三石450-1
B：大正5年（1916）5月→昭和55年以降に三石耐火煉瓦（株）と合併
G：商標（『日本登録商標大全』第9輯）
H：山三マークは大正5年10月27日に三石窯業（株）が商標取得。南海鉄道堺東駅近辺で採取された実例あり。

三石窯業（株）



A：和気郡三石町三石450-1
B：大正5年（1916）5月→昭和55年以降に三石耐火煉瓦（株）と合併
G：商標（『日本登録商標大全』第9輯）
H：三石耐火煉瓦（株）の縦書印に似た刻印だが、イリヤマ＋三の社章が添えられている（ディンプルなし）。

川崎窯業（株）

A：和気郡福河村寒河180
B：昭和10年（1935）3月（合資）広瀬大阪耐火煉瓦製造所→昭和14年10月川崎窯業（株）岡山工場製造所→昭和21年頃日本鋼管（株）岡山炉材製造所→昭和37年頃品川白煉瓦（株）日生工場
G:社章（『耐火物年鑑』S16）
H：昭和16-18年発行の『耐火物年鑑』ではこのマークを社章として掲げる。岡山県下では広瀬大阪耐火煉瓦の工場を買収し終戦前後まで製造。

川崎窯業（株）？

A：和気郡福河村寒河180
B：昭和10年（1935）3月（合資）広瀬大阪耐火煉瓦製造所→昭和14年10月川崎窯業（株）岡山工場製造所→昭和21年頃日本鋼管（株）岡山炉材製造所→昭和37年頃品川白煉瓦（株）日生工場
G:社名略号
H：戦後雑誌では菱にKYKを使用。

日産窯業（株）

A：片上工場：和気郡片上町東片上2492／石生工場：赤磐郡石生村田原上1525／鶴海工場：邑久郡鶴山村鶴海4132
B：片上工場：大正6年（1917）4月明治窯業所→大正8年（合資）明治窯業所→昭和14年日産窯業（株）片上工場
D：倉敷市芸文館敷地転石
G:広告（『耐火物年鑑』S17）
H：日産窯業（株）製造、日産化学工業販売の耐火煉瓦。

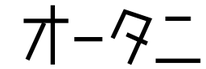
日本耐火煉瓦（株）

A：和気郡片上町
B：片上工場：大正5年（1916）12月→大正14年頃
G：商標・社章（『日本登録商標大全』第11輯上）

川崎炉材（株）

A：三石工場：和気郡三石町三石85
岡山県備前市伊部936
B：大正5年（1916）4月㊦三石耐火煉瓦製造所→昭和3年頃太田耐火煉瓦（株）→昭和21年頃高木耐火煉瓦（合資）→昭和22年頃高野窯業（資）→昭和28年頃川崎炉材（株）三石工場→近隣他所に移転？
G：印影
H：戦後に各地の工場を傘下に入れKAWAROブランドの耐火煉瓦を製造。県下には他に三石東工場、三石西工場、児島工場があった。

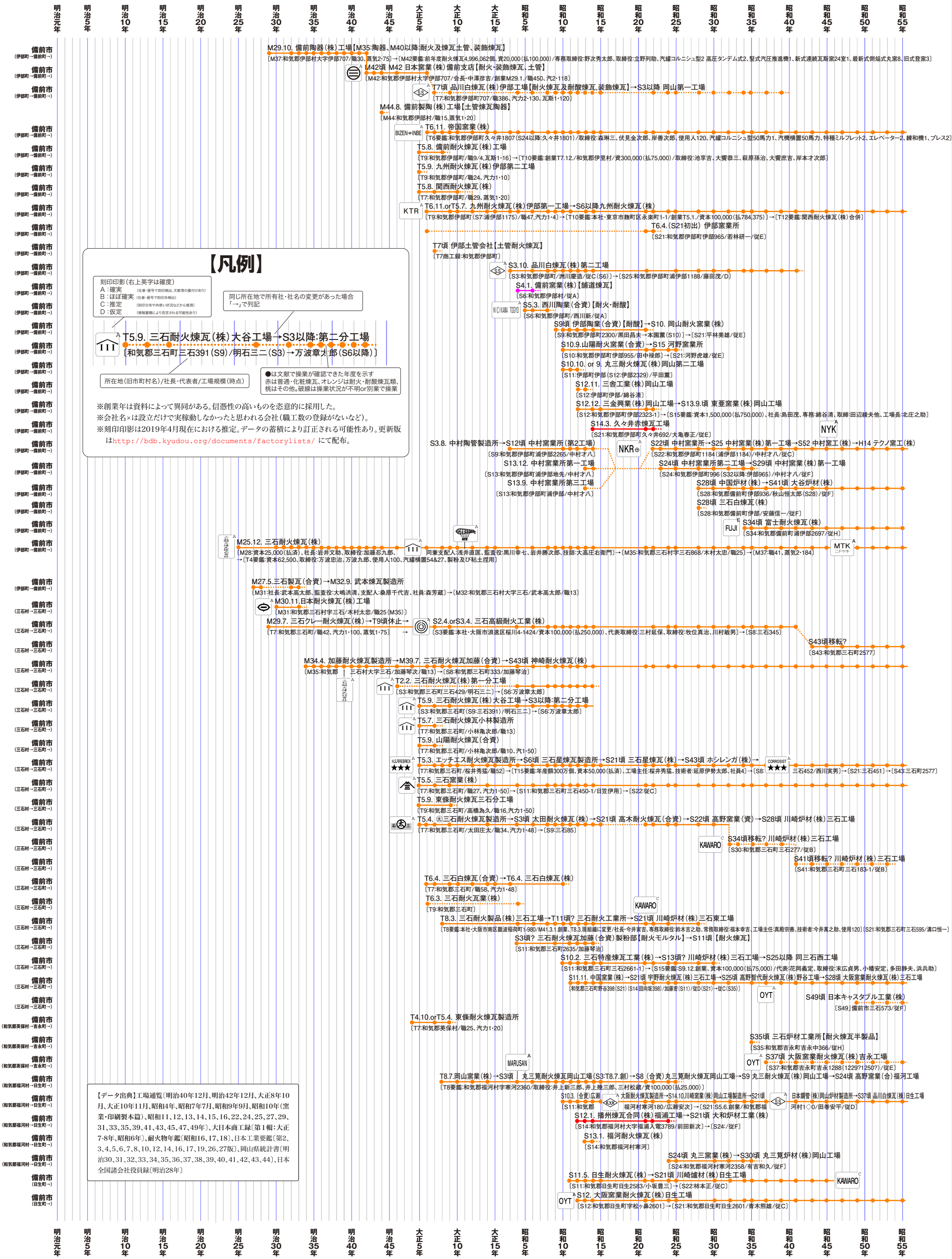
大谷炉材



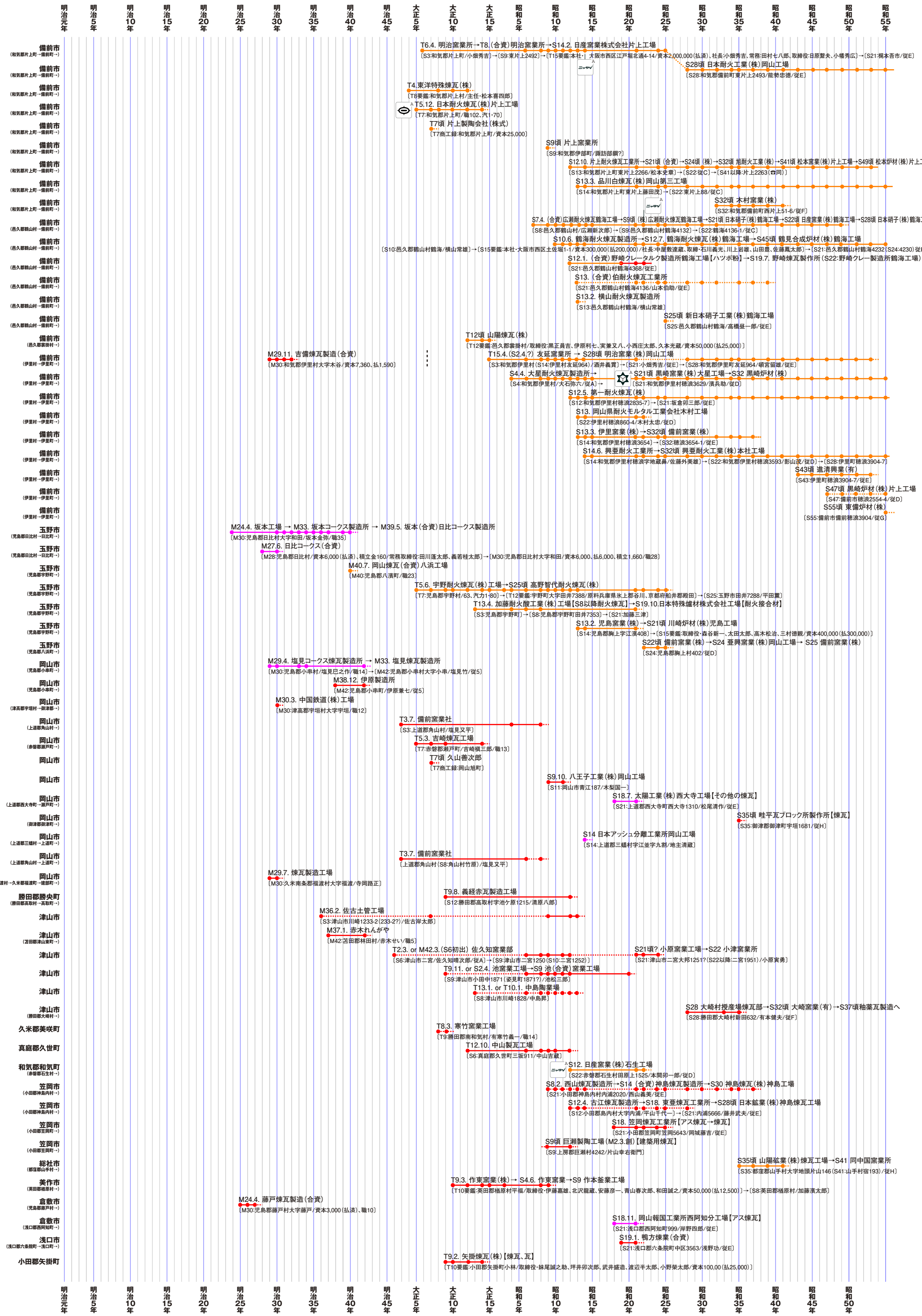
A：岡山県備前市伊部936
B：中国炉材（株）→昭和40年（1965）山伯耐火煉瓦を合併し大谷炉材（株）→平成4年（1992）（株）合同セラミックス
D：友田神経内科建物
E:兵庫県高砂市伊保港町2丁目8-2
G：印影
H：カタカナで「オータニ」とあり、備前市伊部の大谷炉材の製品と考えられる。同医院には他にも多数種類の耐火煉瓦が外装に用いられており興味深い。

㊦三石耐火煉瓦製造所（太田耐火煉瓦（株））

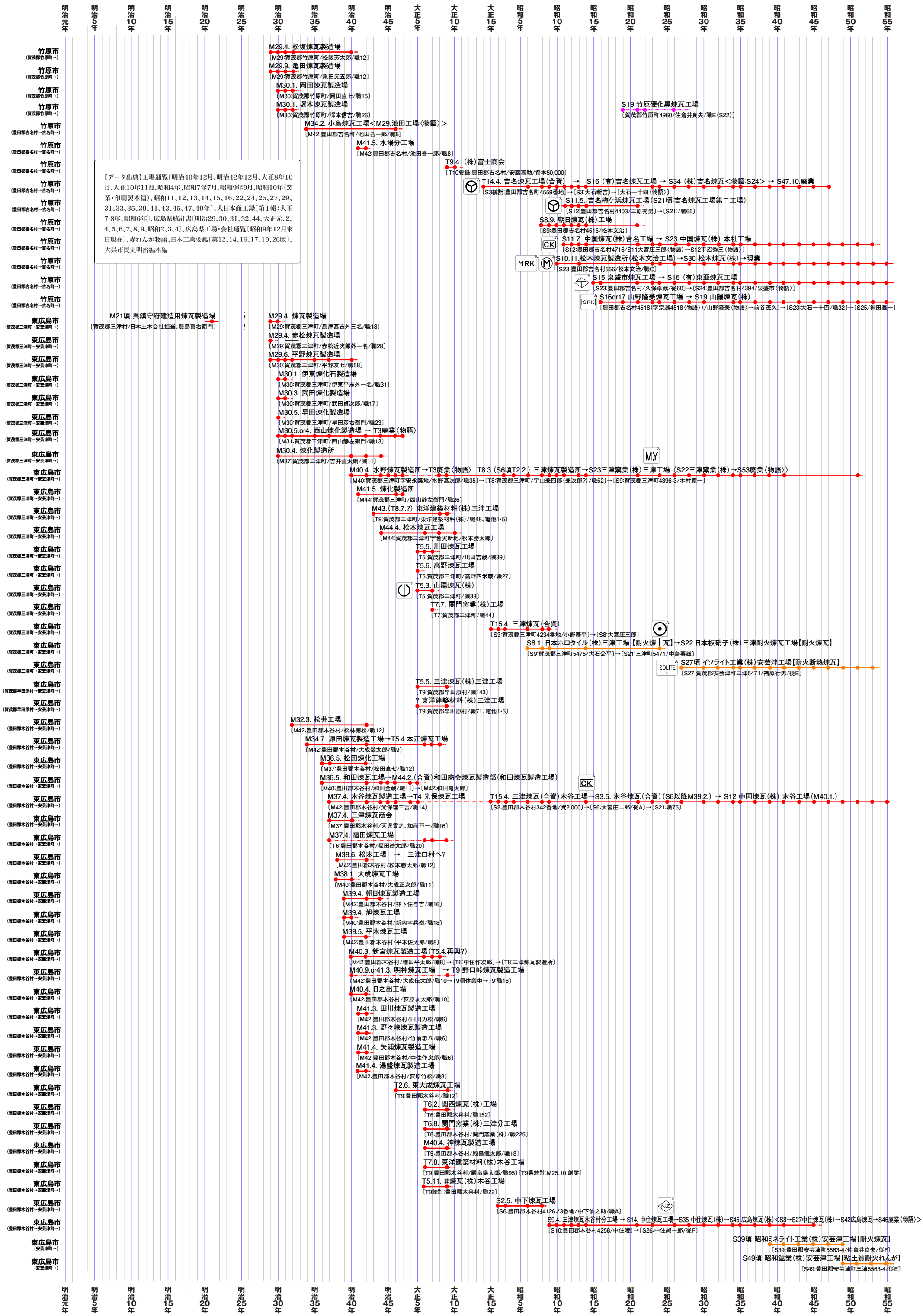
A：和気郡三石町三石85
B：大正5年（1916）4月→昭和3年（1928）頃株式会社化→昭和21頃以降高木耐火煉瓦（合資）
D：兵庫県西宮市民家壁
G:社章
H：大正8年『工場通覧』に丸太マークを掲載。同型の印のある耐火煉瓦が西宮市で検出されている。この煉瓦には左書きで「三石」と添えられている。



岡山県下煉瓦工場の消長（1）



岡山県下煉瓦工場の消長（2）



広島県下煉瓦工場の消長（1）

明治元年 明治5年 明治10年 明治15年 明治20年 明治25年 明治30年 明治35年 明治40年 明治45年 大正5年 大正10年 大正15年 昭和5年 昭和10年 昭和15年 昭和20年 昭和25年 昭和30年 昭和35年 昭和40年 昭和45年 昭和50年 昭和55年

福山市
- S9.10. 化学工場福山電気(株)
  〔S12:福山市手城町10/藤井與一右衛門〕

尾道市（沼隈郡山波村）
- S5.8. 青山硬化煉瓦工場→S9頃 岡田硬化煉瓦工場
  〔S9:沼隈郡山波村1022-1/岡田菊松/資150,000(払37,500)〕

三原市（賀茂郡皆実町）
- M42.10. 広島瓦斯電軌(株)皆実町工場【石炭煉瓦】
  〔T6:賀茂郡皆実町/職43、汽7・21、瓦6・24〕

大崎上島町（豊田郡中野村→）
- T7.7.orT10.7. 讃岐煉瓦(株) 大崎分工場
  〔S2:豊田郡中野村4616番地〕
- T7.12. 大崎煉瓦(株)
  〔T7統計:豊田郡中野村/大成勝之助/資150,000、済37,500〕

大崎上島町（豊田郡中野村→）

呉市（賀茂郡三津口村→）
- T2.4. 煉瓦製造所
  〔T2:賀茂郡三津口村/松本勝太郎/職24〕

呉市（賀茂郡広村→）
- T7.11. 特許白煉瓦(株)広島工場【白煉瓦、石粉、石灰ノ製造販売】
  〔T7統計:賀茂郡広村/職29、電他2・60〕→〔T8:資300,000、済90,000〕

呉市
- T6.3. 関西煉瓦(株)
  〔T6:呉市大字荘山田村/資220,000、66,000、積立1,500〕

呉市
- T9.2. 呉工業(株)【煉瓦製造工事設計請負】
  〔T12:呉市本町通5/取締役代表:松本勝太郎、取締役:富島歌郎、林利平、渡辺伍、長澤元太郎、盛井禎造、阪田斉次郎/資本300,000(払105,000)〕

呉市
- S11.11. 大野硬化煉瓦製造工場
  〔S11:呉市海岸通6-42/大野岩蔵〕

江田島市（佐伯郡大柿村→）
- M39.6. 平塩煉瓦工場
  〔M42:佐伯郡大柿村大字大君/平塩品吉/職6〕

江田島市（佐伯郡大柿村→）
- T7.7. ㊫大君煉瓦製造工場
  〔T9:佐伯郡大柿村大君/有井信/職18〕

江田島市（佐伯郡大柿村→）
- T9.2. 三津煉瓦(株)大柿工場
  〔T9:佐伯郡大柿村/職29〕

江田島市（安芸郡江田島村→）
- M41.6. 浜田煉瓦工場
  〔T7商工録:安芸郡江田島村/有井信/職6〕

江田島市（安芸郡江田島村→）
- T6.10. 江田島煉瓦製造所
  〔S2統計:安芸郡江田島村8599番地ノ1/菊池幸郎〕

江田島市（安芸郡江田島村→）
- T7.4. 東洋建築材料(株)江田島工場
  〔T9統計:安芸郡江田島村/職58〕

江田島市（安芸郡江田島村→）
- T7.5. 関門窯業(株)第三支工場分工場
  〔T9:安芸郡江田島村/職54〕

江田島市（佐伯郡津久茂村→江田島村→）
- T7.8. 津久茂煉瓦輪環工場
  〔T7統計:佐伯郡津久茂村/萩本良七/職17〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- M38.5. 煉瓦製造所
  〔佐伯郡三高村/三浦九三郎〕→〔T7商工録:三浦利助(他五人組)〕→〔T14商工録:三浦小太郎〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- M42.10. 迫煉瓦製造工場
  〔M42:佐伯郡三高村/迫保太郎/職55〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- M42.10. 煉瓦製造所 → 三高煉瓦工場 → T8関門窯業(株)江田島分工場第三?支本工場→T9関門窯業(株)江田島分工場第一支本工場
  〔M42:佐伯郡三高村/三浦小太郎他四名/職48〕→〔T8統計:関門窯業(株)〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T2.3. 煉瓦製造所
  〔T2統計:佐伯郡三高村/三浦瀧太郎外4名/職14、其他1・7.1〕→〔T4:三浦禄一外1名〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T5.7. 小坪煉瓦工場
  〔T6:佐伯郡三高村/三浦瀧太郎外一名/職10〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T5.10. 三高煉瓦分工場→T8 関門窯業(株)江田島分工場 第一支工場
  〔T6:佐伯郡三高村/三浦小太郎外六名/職47〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T5.5. 関門窯業(株)第一支工場分工場
  〔T9:佐伯郡三高村/職45〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T6.1. 三高第二工場→T8 関門窯業(株)江田島分工場 第二?支工場
  〔T6統計:佐伯郡三高村/三浦小太郎外四名/職41〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T7.6. 関門窯業(株)第一支工場分工場→S2 三浦小太郎煉瓦第二工場→S3 三浦小太郎煉瓦第二工場
  〔S2統計:佐伯郡三高村146番地(S9:佐伯郡三高村高祖145)/職146〕※S2、3統計:M45.5.→工場通覧S7:M30.3.

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- M29.3. 東洋建築材料(株)三高工場第一・第二・第三分工場
  〔T9統計:佐伯郡三高村/職51・77・94〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T10.6. 三浦小太郎第三煉瓦工場→S3 三浦京造煉瓦工場→S6 三浦小太郎商店第二工場
  〔S2統計:佐伯郡三高村2698番地〕→〔S3:三浦京造〕→〔S6:三浦小太郎〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- T13.7. 河野又一煉瓦工場
  〔S2統計:佐伯郡三高村高組742、744番地/河野又一〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- S6.10. 三浦赤煉瓦工場(S21:M30.3.)→S14頃 (株)三浦政登商店三高工場?→S30頃 伊木煉瓦工場?
  〔S21:佐伯郡三高村(高祖145)/三浦元/職E〕→〔S30:佐伯郡三高村高祖146/伊木要一/従F〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- M26.3.? 三浦赤煉瓦工場
  〔S9:佐伯郡三高村三古2658/三浦小太郎〕

江田島市（佐伯郡三高村→沖美町→）
- S13.4. 三浦元耐火煉瓦工場
  〔S13:佐伯郡三高村高祖/三浦元〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- M43.1. 関門窯業(株)江田島分工場 第二支工場
  〔T8:佐伯郡高田村/職146〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- M43.1. 高田輪環工場
  〔M44:佐伯郡高田村/阿波井力也他5名/職15〕→〔T1統計:上日森源一外8名〕→〔T2統計:旨森源一外7名〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- T5.1. 上田輪環煉瓦工場 → T8.2. 能美窯業工場 → S22 加藤煉瓦工場(M21.4.)
  〔T6統計:佐伯郡高田村/上田次郎/職40〕→〔T8統計:加藤常太郎/職18〕→〔S2統計:佐伯郡高田村3833番地〕→〔S21:高田村3314番地/加藤常太郎/従E〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- T5.5. 岡奈屋工場
  〔T9:佐伯郡高田村/職11〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- T6.4. 中村煉瓦工場
  〔S2統計:佐伯郡高田村865番地〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- T6.2. 共同輪環煉瓦工場
  〔T6統計:佐伯郡高田村/福田保吉/職46〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- M21.4.(S3初出) 阿波井煉瓦工場
  〔S3統計:佐伯郡高田村3474ノ2番地/職6〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- S26頃 新宮煉瓦工場
  〔S23:佐伯郡高田村1098/新宮彦九郎/職D〕→〔S34:能美町1157〕

江田島市（佐伯郡高田村→能美町→）
- S8.5. 森島煉瓦工場
  〔S14:佐伯郡高田村字小方/森島□一〕

江田島市（佐伯郡中村→能美町→）
- T7.4.煉瓦製造所(岡本煉瓦製造所)
  〔T7:佐伯郡中村/岡本英一/職10〕
  〔S23:佐伯郡高田村1098/新宮彦九郎/職D〕→〔S34:能美町1157〕

広島市
- M29.4. 広島煉瓦製造(株)
  〔M29:広島市字国泰寺村/職60〕

広島市
- S4.2. 有木硬化煉瓦工場→S6頃 佐藤硬化煉瓦工場→S9頃 三条硬化煉瓦工場【硬化煉瓦】
  〔S3広島市三篠町/有木金十郎〕→〔S6:佐藤三治〕→〔S9:楠町3丁目/堀田力松〕→〔S9統計:楠町3-707〕

広島市
- S5.2. 吉島硬化煉瓦【硬化煉瓦】
  〔S9:広島市吉島本町738-1/安森篤胤〕

広島市
- S5.3. 小松アス煉瓦製作所→S14 小松煉瓦製作所【アス煉瓦】
  〔S9:広島市蟹屋町6-5)/小松唯一〕

広島市
- S9.2. (合資)浜田硬化煉化製造所【硬化煉瓦】→S23頃 秦硬化煉瓦製造所
  〔S9:広島市吉島本町738/田中重人〕→〔S12:浜田重人〕→〔S23:広島市吉島本町2ノ738/秦常松/従D〕

広島市
- S9.10. 小中黒煉瓦工場
  〔S9統計:広島市舟入幸町524/小中繁太郎〕→〔S14:舟入幸町353〕

広島市
- S24頃 広島耐火煉瓦(株)【耐火】
  〔S24:安芸郡府中町224/職D〕

広島市
- S23頃 安芸建材工場(株)大洲工場
  〔S24:広島市大洲町5ノ350/花澤満/職D〕

広島市
- S24頃 安芸林工業(株)【黒煉瓦】
  〔S24:広島市大洲5-350/従F〕

広島市
- S24頃 長島産業(有)【硬化煉瓦】
  〔S24:広島市舟入町50/長島千訓/従F〕

広島市
- S24頃 広島硬化工業【硬化煉瓦】
  〔S24:広島市新手品中町16丁目/日常岸雄/従F〕

広島市（秋越村→高南村→白木町→）
- S24頃 広島建材工業(株)【硬化煉瓦】
  〔S24:高田郡秋越村/従F〕

廿日市市（佐伯郡大野村→）
- T6.7.orT7.1. 宮島耐火煉瓦(株)
  〔T6統計:佐伯郡大野村/河野又一/資本250,000(払62,500)〕

廿日市市（佐伯郡地御前村→）
- T8.3. (合資)地御前輪環煉瓦製造所(T7商工録:M28.5.地御前煉瓦製造所)
  〔T9:佐伯郡地御前村/相良仁三郎/職21〕

福山市（深安郡引野村→）
- M20.(T5初出) 山口煉瓦陶器工場【陶器及赤煉瓦】→T8.7.山陽陶工(株)
  〔T5:深安郡引野村(T9:字引野長崎)/山口慎一郎/職40〕→〔T8:山陽陶工(株)〕

福山市（深安郡引野村→深安町→）
- T6.8. 陶器煉瓦工場【陶器及赤煉瓦】→T7.高橋陶器煉瓦工場
  〔T5統計:深安郡大津野村/高橋繁/職40〕

三次市（双三郡板木村→三和町→）
- T12.3. 馬通瓦工場【瓦、土管、煉瓦陶器】
  〔S2統計:双三郡板木村大字羽出度453番地〕

庄原市（比婆郡庄原町→）
- T5.8. 美除クレー耐火煉瓦製造所【クレー、耐火煉瓦】
  〔T5:比婆郡庄原町/美除角比郎/職12、タービン2/10〕

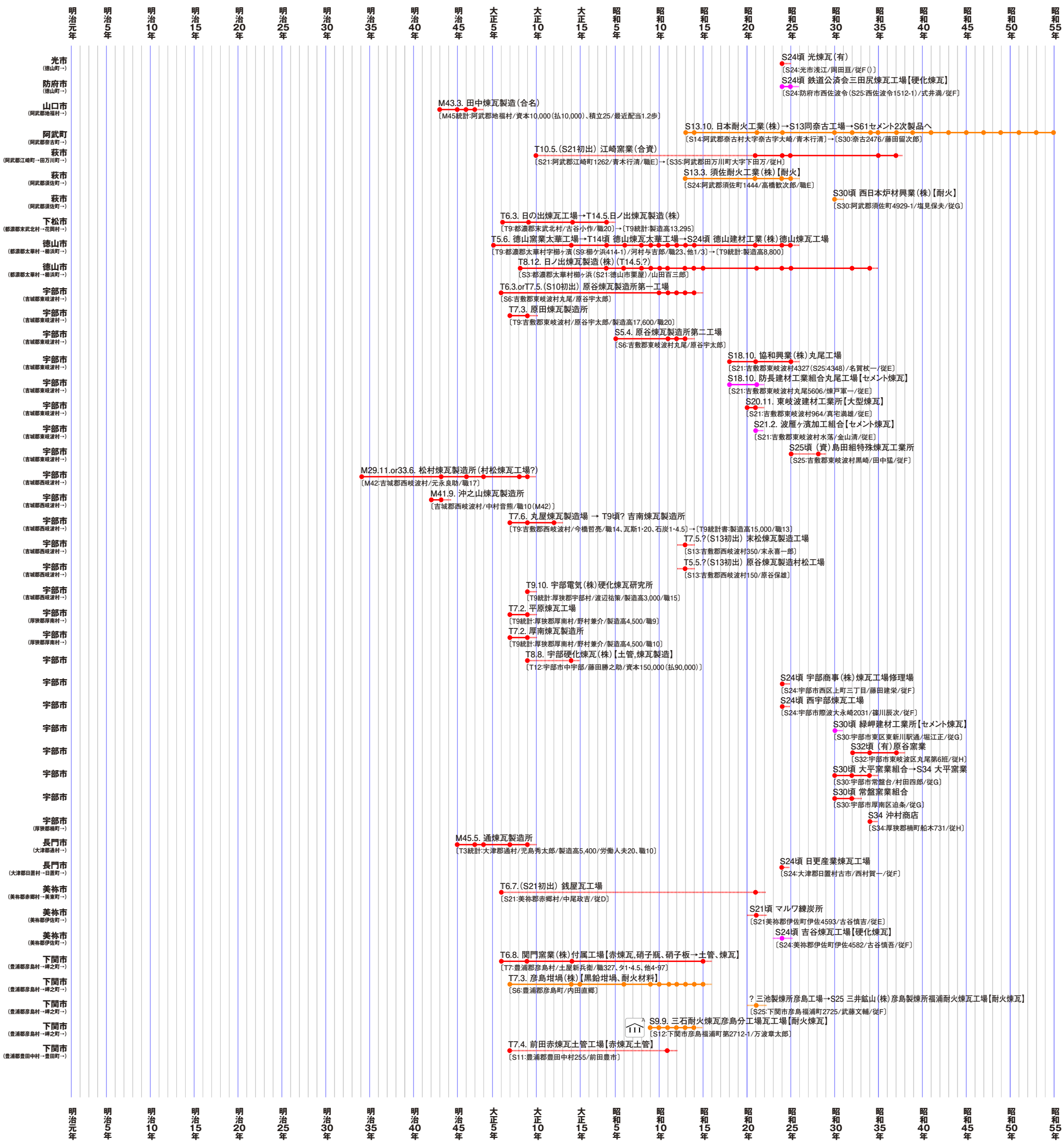
庄原市（比婆郡敷信村→）
- B T13.5. 山陽窯業(株)第二十七工場→S13頃陶器製造へ
  〔S6:比婆郡庄原町/京本勘三郎/職A〕〔S6商工録:本社庄原町/社長・吉光熊一/工場17ヶ所〕

双三郡三良坂町
- T3.4. 四十八阪田中瓦工場
  〔S3:双三郡三良坂町468/田中才太郎〕

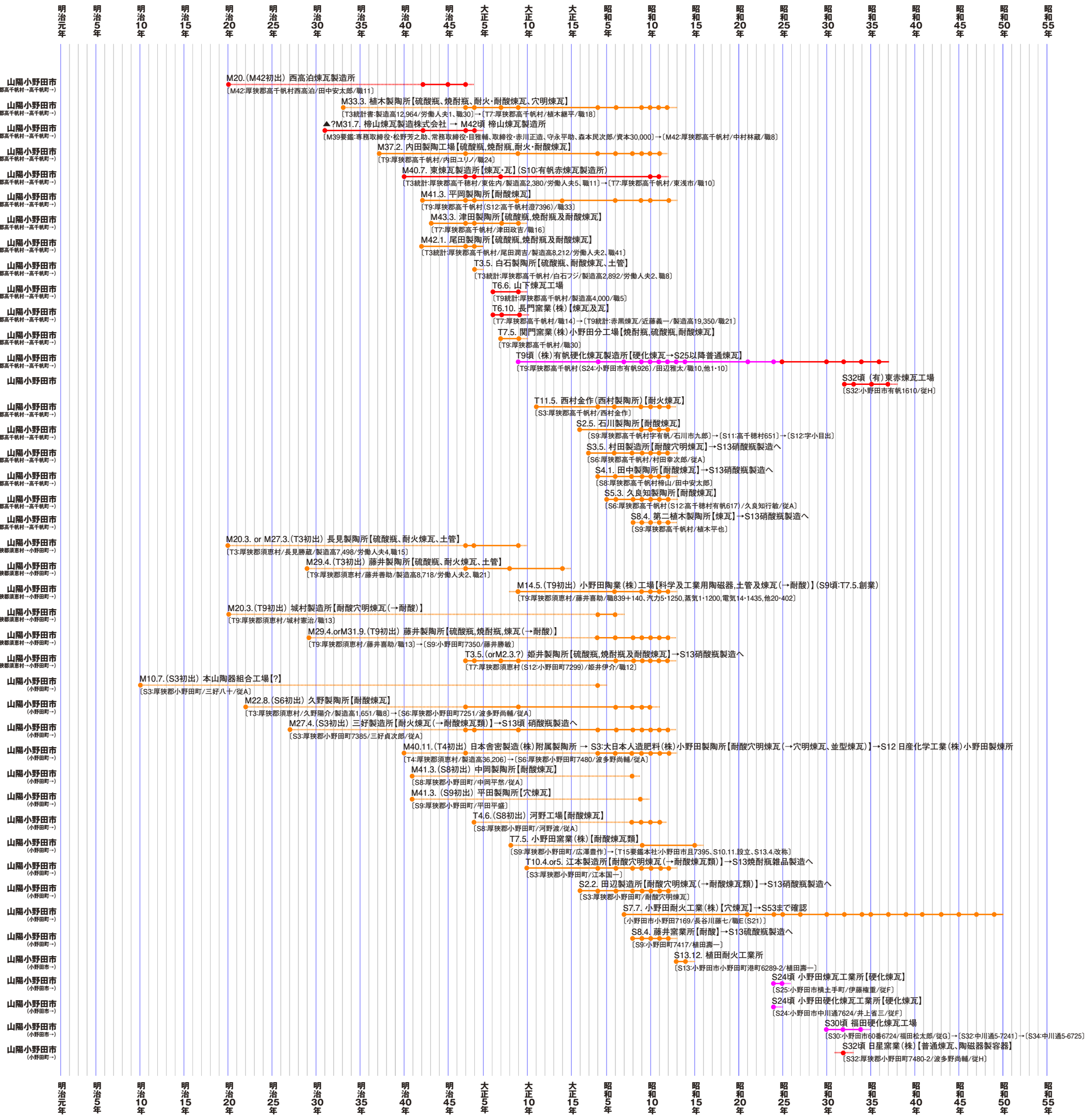
明治元年 明治5年 明治10年 明治15年 明治20年 明治25年 明治30年 明治35年 明治40年 明治45年 大正5年 大正10年 大正15年 昭和5年 昭和10年 昭和15年 昭和20年 昭和25年 昭和30年 昭和35年 昭和40年 昭和45年 昭和50年 昭和55年

広島県下煉瓦工場の消長(2)

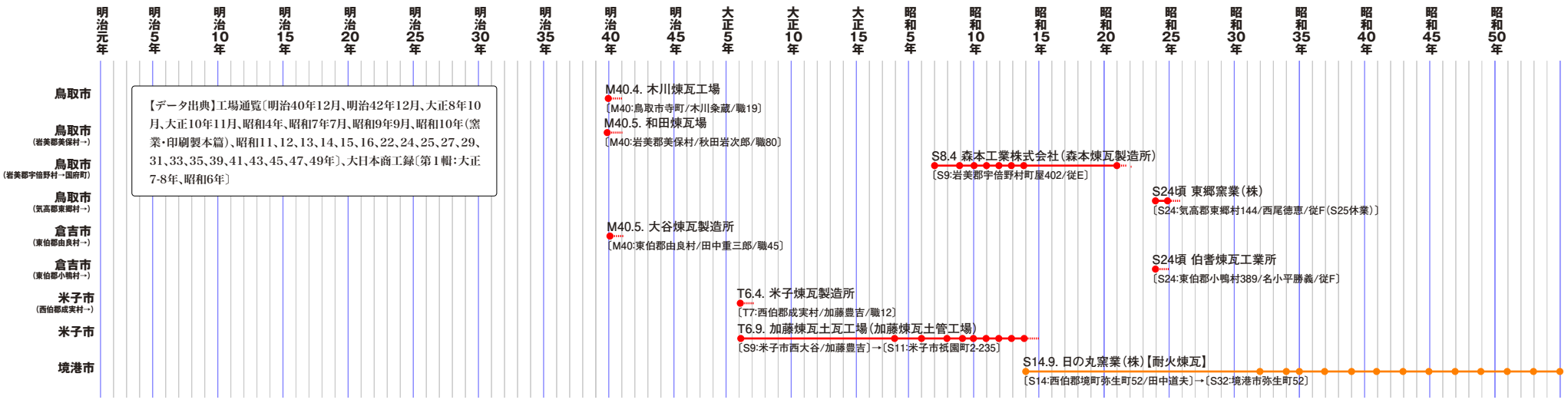
【データ出典】工場通覧〔明治40年12月、明治42年12月、大正8年10月、大正10年11月、昭和4年、昭和7年7月、昭和9年9月、昭和10年（窯業・印刷製本篇）、昭和11、12、13、14、15、16、22、24、25、27、29、31、33、35、39、41、43、45、47、49年〕、山口県統計書〔明治45/大正1、大正2、3、4、9〕、大日本商工録〔第1輯：大正7-8年、昭和6年〕、日本工業要鑑〔第2、14、16、17、19、27版〕



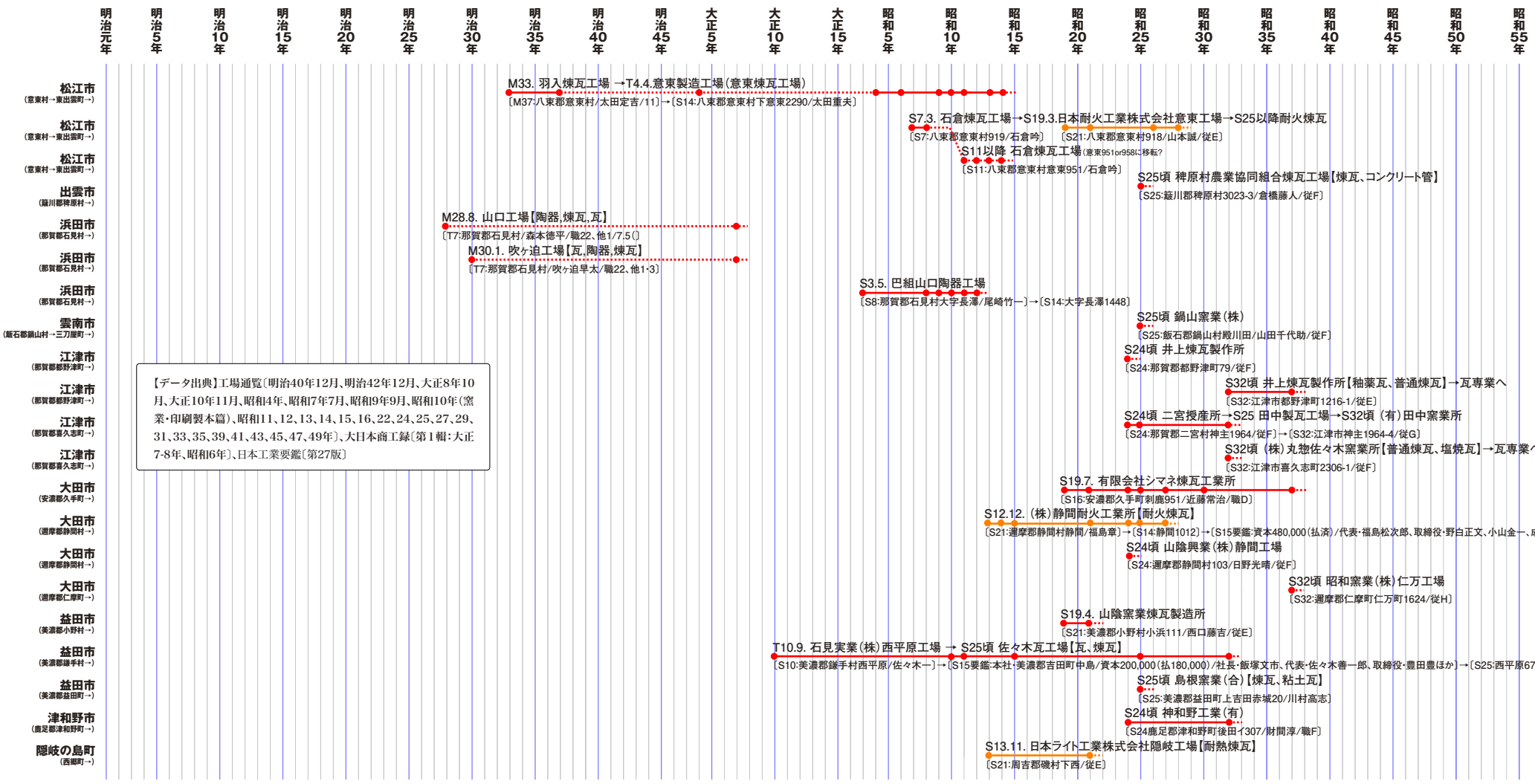
山口県下煉瓦工場の消長（1）



山口県下煉瓦工場の消長（2）



鳥取県下煉瓦工場の消長



島根県下煉瓦工場の消長